

職場におけるコミュニケーション ツールとしての特技懇

巻・頭・言

特許庁技術懇話会 代表幹事 伊藤 真明

本年度の特技懇代表幹事を務めております伊藤真明と申します。今回、巻頭言を投稿する機会を得ましたので、僭越ながら、特技懇が提供している各種サービスやイベントの紹介を兼ねて、普段考えていることを述べたいと思います。

会員の皆様は、職場におけるコミュニケーションが足りているとお感じですか。

民間調査会社のアンケート結果等によると、社内における部署間や部署内でのコミュニケーションに課題があると考えている企業は少なからずあるようです。

私たちの周りには、自分が従事したことがない業務に精通し、知識と経験が豊富な職員がたくさんいます。私自身、以前に所属していた部署や私生活での経験が、現在の業務における進め方や業務に対する考え方に大きく影響していると感じますし、上司や同僚、庁のOB・OGである先輩方から、業務について教えていただくことは大変有意義であり、自分の業務の質や効率を改善することにつながるかもしれません。

また、普段業務で接する機会がない人と、業務時間外に、たまにでも連絡し合っていると、将来に仕事で一緒になった時に話しやすいものです。

審査業務では、審査の品質を担保するために協議が推奨されていたり、審査業務以外においてもプロジェクト・チームで業務を遂行したりすることがあり、業務における職員間のコミュニケーションは日常的に行われていると思います。

しかし、私の心証ですが、私が入庁した平成17年頃に比べると、働き方の改革の取組のおかげで個人の事情に合わせて働きやすくなってはいるものの、業務時間外に上司や同僚とコミュニケーションを取る機会は減っているように感じます。そのような機会を自主的に作れる

人はよいのですが、実際は、日々の多忙な生活の中になかなか難しいと感じている人が多いかもしれません。

このように感じている会員の皆様は、是非、特技懇が提供している各種サービスやイベントを活用していただければと思います。例えば、特技懇が開催する懇親会や意見交換会などに参加していただくだけで、他部署に所属している正会員や庁のOB・OGである特別会員と自然にコミュニケーションを取ることができると思います。もし、特技懇が提供している各種サービスやイベントについてのご意見があれば随時お知らせください¹⁾。

また、会員サイト²⁾には会員情報を検索する機能がありますが、異動の度にご自身の所属部署を最新のものに更新したり、コメント欄に自己紹介や近況等を書き込んだりすることで³⁾、他の会員との距離感を縮め、互いに話しやすくなるきっかけになるのではないかと思います。

最後に、会員の皆様の、特技懇へのご支援とご協力に感謝し、この場を借りてお礼を申し上げますと共に、特技懇が提供するサービスを是非とも活用していただき、職場におけるコミュニケーションに役立てていただければ幸いです。そして、特技懇の活動がこのような観点からも特許行政に寄与できることを切に願いつつ、引き続き、代表幹事の責務を果たしていきたいと思っております。

1) もし、ご意見がありましたら、以下のアドレスまでメールにてお知らせください。toiawase01@tokugikon.jp

また、特技懇常任委員会では、本年度も会員向けのアンケートを実施する予定ですので、その機会にご意見を回答していただくこともできます。

2) <https://tokugikon.smartcore.jp/>

3) 会員サイトにログインすると、左上にご自身の氏名が表示されますが、この氏名をクリックすると、ユーザーセンターが表示されます。ユーザーセンターにおいて、「コメントの編集」ボタン(ユーザーアイコンの隣)を押すと、コメントを編集することができます。是非お試しください。